

図 10.32 東芝電気こたつ（個こたつ用）EK-1 型 (300 W)  
Toshiba quilted foot-warmer heater, mobile warmer use, Model EK-1

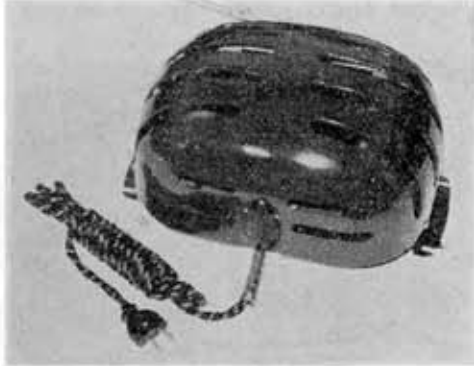


図 10.33 東芝電気こたつ（個こたつ用）EK-2 型 (500 W)  
Toshiba quilted foot-warmer heater, stationary warmer use, Model EK-2

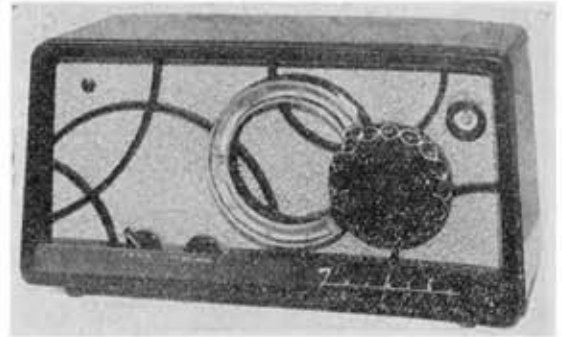


図 10.35 マツダラジオ 6SC-19 型  
Matsuda radio, Model 6SC-19

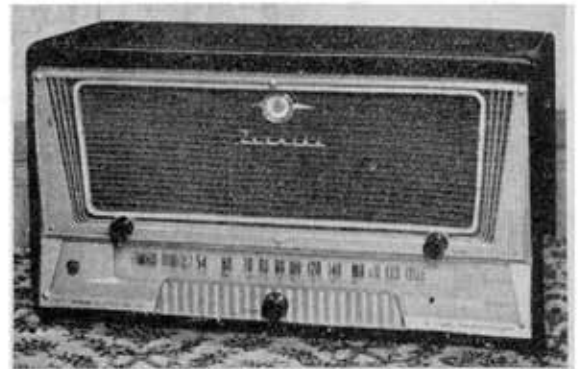


図 10.36 マツダラジオ 6SC-35 型  
Matsuda radio, Model 6SC-35

スイッチおよびサーモスタット二箇付)

10.3.11 東芝電気ストーブ ES-4 型, ES-5 型  
(図 10.29, 図 10.30)

100 V-2 kW, 号 8-762, 100 V-1 kW, 号 8-761

本器は角形熱板にリボン線を配列した反射対流型ストーブで、1 kW, 2 kW とともにスイッチにより各々半容量に切替えることが出来る。即ち 1 kW のものは 500 W 用として、2 kW のものは 1 kW 用としても使え、しかも放熱面積が変わらないよう設計してあるから能率的である。なお 2 kW ストーブには上部に水盤が取付けてある。

10.3.12 東芝電気ストーブ ES-7 型 (図 10.31)  
100 V-600 W, 号 8-760

ポピン一箇、特殊銅板製の反射板を使用した家庭用高能率反射型電気ストーブで、移動ハンドルを備えている。また支持脚により反射角度は三段に変えられる。優

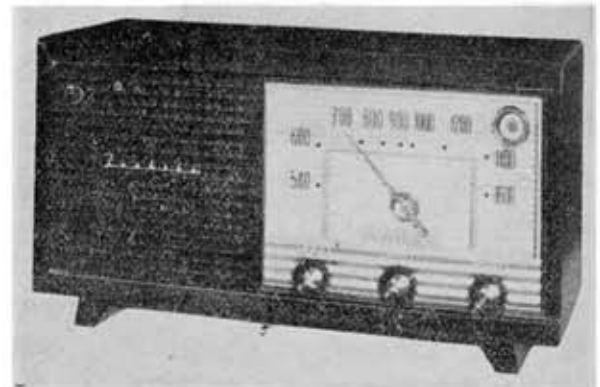


図 10.37 マツダラジオ 6UA-16 型  
Matsuda radio, Model 6UA-16



図 10.38 マツダラジオ 6UE-38  
Matsuda radio, Model 6UB-38

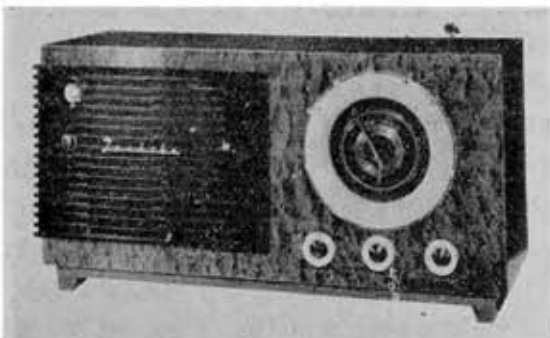


図 10.34 マツダラジオ 6SB-15 型  
Matsuda radio, Model 6SB-15

美な意匠は流線を充分に採用した上、本体色マ alun とガードのクロームメッキが調和した色調をもって、心癒よい温暖感を与えている。

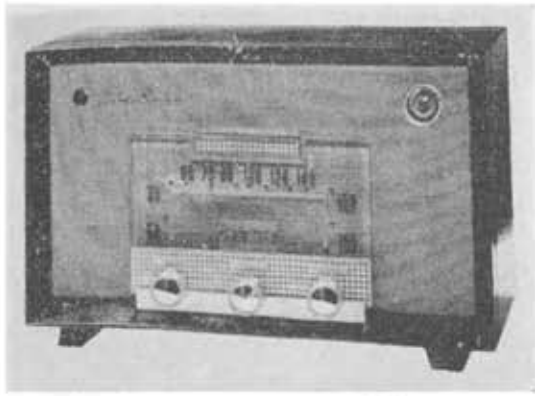


図 10.39 マツダラジオ 617A 型  
Matsuda radio, model 617A

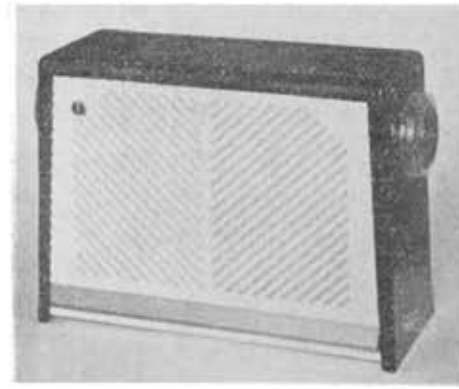


図 10.40 マツダ  
ラジオ 5MA-21  
型  
Matsuda radio,  
Model 5MA-21

### 10.3.13 東芝電気こたつ、置こたつ用 EK-1 型、 (図 10.32)、堀こたつ用 EK-2 型 (図 10.33) 100V-300W, 〒8-759, 100V-500W, 〒8-780

置こたつ用、堀こたつ用ともやぐら内に入れ使用するもので、外観は優美な楕円型でありサンタン色の焼付鍍装仕上である。内部の発熱体は熱の分布が一様になるよう反射板を利用し、また温度の調節はサーモスタットにより弱でも強でも自動的に保たれる。万一の事故を考慮しさらに温度ヒューズが取り付けられ二重安全装置になっている。

## 10.4 ラジオおよびテレビ

### 10.4.1 マツダラジオ標準型

29年のマツダラジオ標準型新機は次の如く五機種が発表された。

1. 6SB-15 6球スーパー (図 10.34)
2. 6SC-19 ヲ (図 10.35)
3. 6SC-35 ヲ (図 10.36)
4. 6UA-16 ヲ (図 10.37)
5. 6UB-38 ヲ (図 10.38)

これらのセットは、従来の標準型にくらべ各種性能の一層の向上を計り、とくに音質、音量の点およびキャビネットデザインに独特の配慮が払われ、構造、仕上等あらゆる面において最高の品質を確保したものである。

標準型に共通の概略仕様はつぎのとおりである。

1. 受信周波数 中波標準放送帯
2. 電源 a-c 100V, 50VA
3. 出力 約 2.5W
4. 感度 極微電界級
5. 真空管 6W-C5, UZ-6D6, 6Z-DH3A, UZ-42, KX-80HK, 6E5
6. スピーカ 6.5吋強力型パーマネントダイナミック (ただし 6UA-16 型は 7吋)
7. 附属回路 マジックアイによる同調指示器を備えトーンコントロール、ラジオフォノ切替スイッチ等を完備している。

このクラスに属する機種にはさらに 617A 型 (図 10.39) がある。これは  $\mu$  同調機構を採用し、8吋大型スピーカ、大型キャビネット、6.3V ミニアチュア管等性能本位の合理的設計による高性能機であるが、そのほかは標準型とほぼ同様である。

### 10.4.2 マツダラジオ高級型 (図 10.41 口絵)

高級型セットとして高周波一般増幅、マジックアイ付の 7球スーパー 7RA-32 型が発表された。このセットは中波ラジオとしてはもっとも豪華なスタイルと十二分の性能を附与され、各方面から好評を博したものである。性能としては、真空管にミニアチュア管を使用し、大型 8吋スピーカと各種高精度高能率の部品等と相俟って、感度、分離、変質、音量、安定度などいずれの面に於ても、極めて優秀な成績が得られている。とくに不良感度地域では本機の高周波増幅がその真面を発揮して、この方面でも明朗な聴取が可能である。

### 10.4.3 マツダラジオ普及型

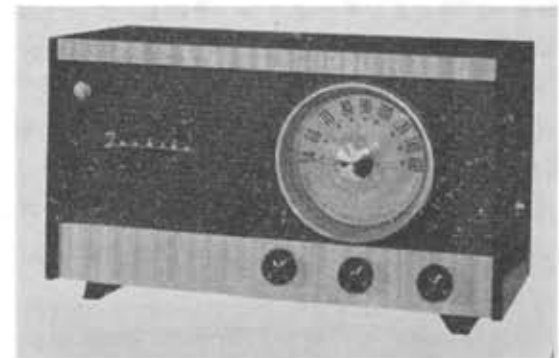


図 10.43 マツダラジオ 5TA-44 型  
Matsuda radio, Model 5TA-44

この級のマツダラジオでは 29 年中に三機種が発表されたが、いずれも多くの特徴を持ち、とくに小型二種は東芝のラジオとして最も異彩を放つものであった。

その一つは卓上用小型中波スーパー 5LA-28 型 (図 10.42 口絵) で、他の一つは卓上用両面スタイルの小型ラジオ 5MA-21 型 (図 10.40) である。いずれも耐熱ポリスチロール成型のキャビネットを用い、そのスタイルは極めて斬新なもので、セットの内容とともに特筆さるべきものである。

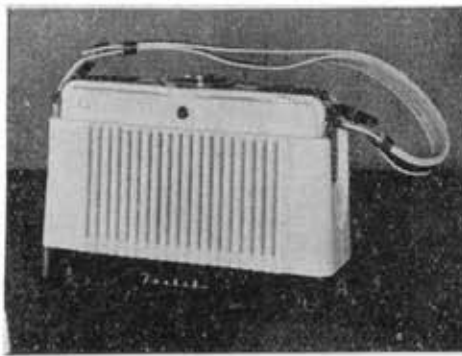


図 10.44 マツダ  
ラジオ 5PA-30 型  
Matsuda radio,  
Model 5PA-30

5 LA-28 型は近代的ホームラジオの一応の到達目標たるトランスレス スーパーで、マツダ真空管の技術を動員しての成果として、新鋭ミニアチュア トランスレスシリーズが採用されている。したがって小形軽量、消費電力も僅少で、しかも能率の高いこと他にその比を見ない。

5 MA-21 型は 6.3 V ミニアチュア管が使われた極めて小電力のパーソナルラジオで、音域の広い楕円コンスピーカの再生音を、キャビネットの両面から聴くことのできる新しいタイプである。

この二機種は共にフェライトコアによる同調コイルをループアンテナ兼用として採用されたもので、感度は極めて良好、最近問題になりつつある蛍光灯などの雑音障害に対しても特効的性能をもっている。

TA-44 型 (図 10.43) は、木製キャビネットの実用向中型セットで、合理化された設計により高級型に遜色のない各種性能を持ち、普及型とはいえず五球標準品の特性の品種である。

#### 10.4.4 マツダ ポータブル ラジオ

5 PA-30 型 (図 10.44) はポータブルラジオとして、最高級の構成を持つ設計で、スリーウェイ (交流、直流、電池)、高周波増幅、スピーカーイヤホン切換、肩掛けベルトなど数々の特徴をあわせ備えている。性能としても勿論ポータブルラジオ界の最高を行くもので、東芝がポータブルとして最初に世に問う製品であるだけ

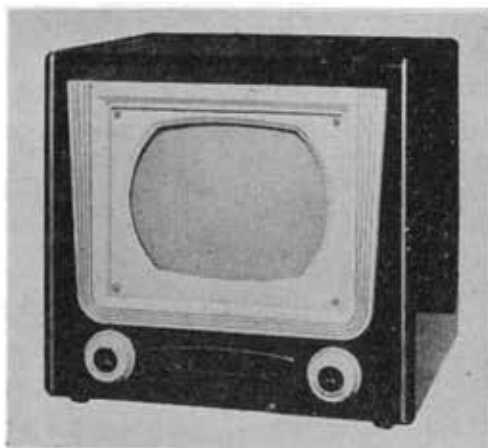


図 10.45 東芝テレビセット 101A 型  
Toshiba TV set, Model 101A

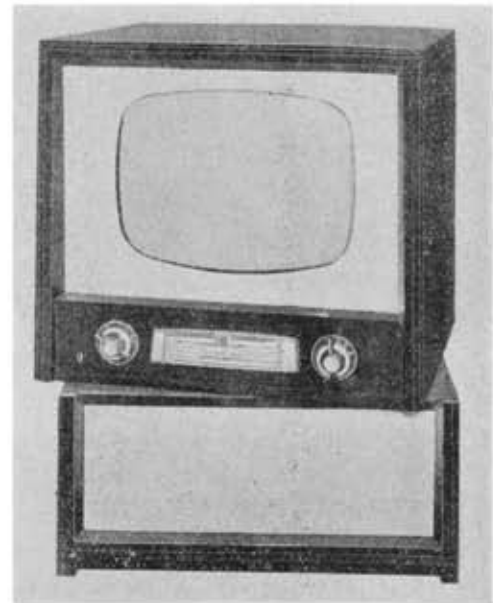


図 10.46 東芝テレビセット 172C 型  
Toshiba TV set, Model 172C

に、各部の精度、構成等細心の注意をもって製作されている。

これの概略の仕様はつぎのようなものである。

1. 受信周波数 中波標準放送帯
2. 電 源 a-c/d-c 100 V  
乾電池 67.5 V (BL-145 型)  
1.5 V × 2 (特単一 2 個)
3. 出 力 約 0.1 W
4. 感 度 極微電界級
5. 真空管 1 T4, 1 R5, 1 T4, 1 U5, 3 S4
6. スピーカ 3.5 × 3.5 吋パーマネント ダイナミック スピーカ
7. 附属回路 イヤホンを自蔵し、スピーカーイヤホン切換付

#### 10.4.5 東芝テレビセット

東京では NHK、NTV とともに放送開始後二年目に入り、大阪、名古屋ではそれぞれ NHK が 10 kW で本放送を開始した。これらの事情を反映して、当社のテレビセットも本格的に量産に一步をふみ出した。

28 年から引きつづき 14 インチ、17 インチのセットとして夫々 141 A、171 A、B を生産して来たが、29 年初頭からこれに改良を加えた、142 A、172 A、B が生産された。何れも前の型に比べて画面を明るくし、感度の上昇を計ってある。

当社の生産態勢の充実と共に、29 年夏に至り、143 A 型 (図 10.47) を発表した。これは幾多の点において前の 142 型の性能を改良し、しかも生産の合理化によって大幅に値段を下げた製品であって、引つづき今日まで当社の主流の製品となっている。優美なウォルナットのキャビネットに収められ、日本の家庭用としては最も手頃なサイズのセットである。また組込みアンテナをキ